

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	・全ての領域で全国平均を上回っており、言語についての知識・理解・技能の能力の定着が見られた。
国語B	・書く領域、読む領域で課題が見られた。自分の思いや考えを書く機会を増やしたり、読解力を高める問題に多く取り組む必要がある。
算数A	・「図形」以外の「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」の3つの領域で全国平均を上回っており、基礎的な算数の力の定着が見られた。
算数B	・無回答率は全国平均より少ないが、数学的な考え方を観点とする問題に対しての正答率が全国平均を下回っていた。
理科	・自然現象への関心・意欲・態度は高いが、科学的な思考・表現や観察・実験の技能、自然現象についての知識・理解面で課題が見られた。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「宿題をしている」児童の割合が全国平均より高く、学習習慣が身に付いている。 ・「1日あたり、勉強している時間が」が全国平均より低かった。宿題とともに自主学習に取り組ませるようにするなど工夫して、家庭学習の充実を図っていくようにする。 ・「将来の夢や目標を持っている」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」児童の割合は、全国平均と同じくらいだったが、「自分には、よいところがあると思う」児童の割合が、全国平均よりやや低かった。あらゆる機会を捉えて、児童の自己肯定感を高めるように努める。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・「ユウカリタイム」では、算数科・国語科の活用力を高める問題に取り組み、管理職や少人数指導教員も教室に入って指導・支援を行う。「田野浦タイム」では、現学年の内容の課題を出し、基礎的・基本的内容の定着を図る。
・特に本校では、算数科を中心とした授業改善を行っているので、さらに研究を深める。学習指導方法について、教材研究を行い、指導技術の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「田野浦っ子ががんばりカード」の取組みを継続し、担任が指導の徹底を継続して行う。また、校長もチェックを行い、称賛する。また、学校通信、学級通信などで児童の頑張りについて、家庭への啓発、基本的な生活習慣と家庭学習の定着を図る。
・児童の学習課題に沿った宿題や家庭学習をさせる工夫、よくがんばっているノートの提示等を行い、自学への意欲を高める。